

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,19 2016年 夏号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワッシーくん」



バードウォッチングへの誘い⑱ 「ジオパーク構想×豊かな海×猛禽類」

「庄内海岸のコアジサシ」

『サンコウチョウ（2016年7月）』酒田市にて

豊かな海×ジオパーク構想×猛禽類



海の始まる場所、鳥海山の鶴間池は、長い年月をかけて大地が作り出した天然の地形です。ここには生態系の頂点である猛禽類のほか、それを支える豊かな動物たちが生息しています。

「鶴間池・芽吹くころ」撮影：斎藤政広

山岳の王者イヌワシ



森の王者クマタカ



最速の猛禽ハヤブサ



水辺の猛禽ミサゴ

鳥海山から流れる雪解け水は、庄内平野を潤し、我が国有数の穀倉地帯をつくります。

鳥海山は今年、日本ジオパークネットワークへ登録申請しており、現在審査の真っ最中です。9月には第36回「全国豊かな海づくり大会」が山形県庄内地方で開催され、山も海も盛り上がりを見せています。さらに今年には国民の祝日である「山の日(8月11日)」も制定され、一層山への関心が高まっています。

海と山は対照的にとらえられがちですが、無関係ではありません。河川を通して上流から河口まで続いています。美しく豊かな海であるためには、美しく豊かな山である必要があります。

鳥海山ではイヌワシやクマタカが観察でき、庄内海岸ではミサゴやハヤブサなどの水辺の猛禽類が観察できます。これこそが、豊かな山、豊かな海であることを象徴しているのではないのでしょうか？夏休みはレジャーで海や山へ出かけることもあるかと思いますが、皆さんのお住まいの地域でも、これらの環境の象徴となる猛禽類を探してみたいかがですか？

庄内の動物情報コーナー

鳥海イヌワシみらい館のある山形県でもそろそろ梅雨が明けるところとなりました。子供たちにとっては待ちに待った夏休みに突入です。今年の夏は大人も子供も一緒に、生物にふれる夏休みにしてみたいかと思いますが？夏休み明け「こんなのいました！」という情報をお待ちしております。投稿は moukin@raptor-c.comまで！



2016/3/31「ヤマシギ」酒田市
「なんだよ。」という目でこちらを見ているが、お肉が美味しいそうです。これからそういう目で見ようと思います。
撮影：齋藤利孝様



2016/4/10「ベニマシコ」酒田市
赤い頭部がかわいらしい。羽の白い模様が目立ちますね。
撮影：秋葉様



2016/4/10「ノビタキ」酒田市
真っ黒な顔。白い首輪が特徴的です。
撮影：秋葉様



2016/5/3「ウミネコ」酒田市
酒田市飛鳥はウミネコ繁殖地として天然記念物に指定されています。大地が作り出した断崖絶壁をうまく利用して繁殖しているのです。
撮影：ナッシュくん



2016/5/3「ピロウドサシガメ」酒田市
ピロウドとはベルベットのこと。なんか体が毛羽立って高級感があるサシガメです。
撮影：ナッシュくん



2016/5/12「イソヒヨドリ」鶴岡市
鮮やかなツートンカラー！海岸線に多く生息するヒヨドリということでイソヒヨドリです。
撮影：宮川道雄様



2016/5/15「ハチクマ」酒田市
13羽のハチクマがタカ柱になって渡っていきます。良く晴れて上昇気流が上がっているのでしょう。春の渡りのピーク時の様子です。
撮影：渡会様



2016/6/15「ヤマセミ」鶴岡市
白いのはヤマセミ。青いのはカワセミ。形が似ているけど赤いのはアカショウビン。何故？
撮影：宮川道雄様



2016/6/19「ササの花」鶴岡市
60年に一度開花するという伝説の花。私の人生ではこれが見納めかもしれないとげさに考えて、また近いうちに別の場所で見れたりして。撮影：本間憲一



2016/6/30「オオアカゲラ」酒田市
キツキが木でなく地上にいる。こんなことまでできるんだぜ～というアピールか？普段やらないことをやると、周りが心配になる！
撮影：阿部様



2016/7/3「ミサゴ」酒田市
豊かな水辺にはミサゴがいる！水産資源を利用しているのは私たち人間だけじゃない！ミサゴも魚が取れなければ困るんです！
撮影：後藤勇様



2016/6/29 番外編「カワガラス幼鳥」秋田県
黒くないのにカラス？実はカラスの仲間ではないのです。水中の小魚などを捕まえています。
撮影：太田伸様

庄内海岸のコアジサシ

2016年シーズンの繁殖状況と自動撮影カメラによる営巣モニタリング（速報）
長船裕紀・岡崎一介（日本野鳥の会山形県支部・庄内海岸いきもの調査グループ）

コアジサシは絶滅危惧Ⅱ類（環境省 2012）に選定されているほか、種の保存法において国際希少野生動植物に指定されているなど、希少鳥類として知られています。またコアジサシの保護の意義や保全対策手法を伝えるものとして「コアジサシ繁殖地の保全・配慮指針」（環境省 2014）が公表されています。

今年もコアジサシが庄内海岸に飛来し、国指定最上川河口鳥獣保護区周辺でも様々な場所で観察され、さらに局所的にコロニーを形成し繁殖も確認しました。孵化率（抱卵状態から孵化に至るまでの率）は非常に低いですが、今年も多くを巣を確認することができました。

酒田市在住観察者（日本野鳥の会山形県支部会員ら）とともに、飛来場所と繁殖状況のモニタリングを実施し、正確な状況把握に努めています。今回は最上川河口鳥獣保護区周辺におけるコアジサシの繁殖状況（速報）をご紹介します。

私たちは1週間に数回の頻度で調査地を訪れ、コアジサシの抱卵姿勢を探索し巣の位置（座標）を把握後、孵化又は抱卵が中断するまでモニタリングを継続し、繁殖状況の成否について調べました。

酒田港北のコロニーにて抱卵が最初に確認されたのは5月29日で、7月14日現在、のべ56巣を確認しました。そのうち確実に雛が誕生したと考えられるのは1巣のみで、それ以外の巣は何らかの要因で繁殖（抱卵行動）が中断してしまいました。コアジサシは産卵してから孵化に至るまで約20日を要します。しかし、多くの巣で最短だと初認の翌日、長くても10日以内に抱卵が中断し、なおかつ卵すら巣から消失していました。今回のような例は過去数年にわたる調査でもおおむね同様の結果で、抱卵中断要因の真実に迫る必要性を感じました。そこで「自動撮影カメラ」を利用し、昼夜問わず抱卵中の巣の撮影を試みました。一昨年からはシーズン1巣ずつ計2巣で実施した結果では、2巣とも孵化に至ったことで卵の消失要因を把握できずいました。今シーズンは6巣（7月14日現在）で実施しています。残念なことに、遠方から巣を観察する限りでは、すでに抱卵が中断している巣もあり、カメラに何か写っていることが期待されます。

繁殖シーズンは残りわずかですが、最終的な営巣状況やカメラの撮影結果については次号以降にまとめてご報告できればと思います。



コアジサシ繁殖地



コアジサシの卵



繁殖地の水辺で羽を休めるコアジサシ

イベント開催報告

○猛禽類観察会「里山の猛禽サシバ」開催しました！

4月17日(日)、猛禽類観察会「里山の猛禽サシバ」を開催しました。講師は鳥海南麓自然保護官事務所より自然保護専門員の長船裕紀さんです。当日は開会式までは天気が持ってくれて、屋外での観察会ができるのではないかと期待したのですが、開会式終了と同時に雨が本降りとなり、急きょ室内での講座となりました。講座では講師の長船氏によるスライドを使ったサシバの生態や、見分けのコツなど

初めて猛禽類の観察会に参加する人も興味深くお話を聞いてくれました。室内講座が終了すると、長船氏による環境豊かな里山に生息する動物たちを観察するイベントを開催しました。田んぼのわきには手掘りの用水路が流れており、その中には「シマドジョウ」「ホトケドジョウ」「ドジョウ」など環境豊かな里山の水生生物たちを観察することができました。悪天候の中、参加してくれた皆さんありがとうございました。



○月山ビジターセンター共催「春を感じる囀り観察会」開催しました！

4月30日(土)は鶴岡市の月山ビジターセンターとの共催で、春を感じる囀り観察会を開催しました。講師はネイチャーカメラマンの太田威さんです。ラムサール条約に登録されている鶴岡市大山地区の高館山から上池・下池の湖畔道路までを散策しながら、森の中の鳥の鳴き声を聞いて春の訪れを感じようという企画です。当日は良く晴れて絶好の聞き耳日和となりました。森の中では春らしいウグイスのさえずりや、「ヒヒ〜ン！」というコマドリの嘶きまで、多くの鳥類のさえずりのほか、実際に姿を見せてくれた鳥もいて、賑やかな観察会となりました。暖かい庄内弁なまりの太田威さんによる解説も、自身の子供のころの体験談などを交えて解説してくださり、当時を懐かしんで聞き入る参加者もいました。月山ビジターセンターパークボランティアの皆さんによる自然解説もためになるものでした。講師の太田威さん、参加してくれた皆さん、月山ビジターセンターの皆さんありがとうございました。



○ジオパーク登録祈念ゴールデンウィーク特別企画展示「水の猛禽ミサゴ」開催しました！

4月23日(土)～5月31日(火)までの間、今年度酒田市と遊佐町、秋田県にかほ市と由利本荘市で登録申請をした「鳥海山・飛島ジオパーク構想」の応援企画として、「水の猛禽ミサゴ」展を開催しました。またゴールデンウィークにはお鷹ぼっぼの絵付け体験を開催しました。イヌワシやクマタカにおされてなかなか名前が出てこないミサゴですが、今回の展示では長船自然保護専門員による生態写真の展示やミサゴの魚とりゲームなどで、変わった猛禽類の存在を知っていただくことができました。来場してくれた皆さんありがとうございました。



○猛禽類観察会「春の渡りを見よう！」開催しました！

5月22日(日)、猛禽類観察会「春の渡りを見よう！」を開催しました。講師は猛禽類保護ネットワークの伊藤智樹さんです。当日は見事な五月晴れとなり、多くの猛禽類の渡りが観察できるものと期待していましたが、一週間前から好天が続いたことで多くの猛禽類が渡ってしまっただけでしたが、ハチクマやサシバが近くを飛翔し、双眼鏡で間近にその姿を観察することができました。講師のレクチャーではハチクマ、サシバの見分け方や、生態などを教えていただきました。当日は結果として23羽のハチクマのほか、ハイタカやノスリなどの猛禽類の渡りを観察することができました。参加してくれたみなさん、講師の伊藤智樹さんありがとうございました。



○猛禽類観察会「身近な自然の象徴オオタカ」開催しました！

6月19日(日)は「身近な自然の象徴オオタカ」と題して、最近ニュースでも話題となっているオオタカについての観察会を開催しました。講師は大山上池・下池鳥獣保護区管理員の宮川道雄さんです。鳥海イヌワシみらい館の観察会では定点観察がほとんどですが、今回の観察会では湖畔道路を散策してもらうことで、オオタカの住む森の様子を体験してもらいました。森の中ではサンコウチョウやキビタキなどの小鳥類のほか、オオルリやアカショウビンの声なども聞くことができ、改めてオオタカの生息する森の環境の豊かさを実感してもらえたと思います。散策路も終盤に差し掛かるころ、手の届きそうな谷の木に止まる1羽のオオタカに遭遇し、全員息をのんでじっくりとその姿を観察することができました。その後、湖畔のほとりにある「おうら愛鳥館」にて行われたレクチャーでオオタカの現状について知っていただきました。参加してくれた皆さん、講師の宮川道雄さんありがとうございました。



○第36回 全国豊かな海づくり大会開催記念行事 猛禽類観察会「水辺の猛禽ミサゴ」開催しました！

7月3日(日)は第36回 全国豊かな海づくり大会開催記念行事として「水辺の猛禽ミサゴ」と題して観察会を開催しました。講師は自然保護専門員の長船裕紀さんです。梅雨時期の開催で天候はあいにくの雨となりましたが、予想以上に鳥たちも飛んでくれました。猛禽類ではハチクマとオオタカの縄張り争いが見れたり、最後にはお目当てのミサゴが水面にダイブして魚を捕まえていくなど、エキサイティングなシーンが多く観察できました。水産資源は私たちだけのものではないことを実感していただくことができました。講師のレクチャーでは変わった生態を持つミサゴを、ユーモアたっぷりに紹介してくれたことで、参加者も興味深く聞いてくれました。全国豊かな海づくり大会は、水産資源の保護と管理と海や川、湖沼の環境保全を広く伝えるという趣旨があります。これに合わせて水辺にも猛禽類が生息していることを知っていただくということで、記念行事登録させていただきました。参加してくれた皆さんありがとうございました。



鳥海イヌワシみらい館 (猛禽類保護センター)

夏休み体験プログラム

7月25日(月)～8月21日(日)
9:00～16:30



エコバッグをつくろう!

7月25日(月)～7月31日(日)
参加費: 200円

葉っぱ模様のすてきなエコバッグを作りましょう!



木片スライスでクラフト!

8月1日(月)～8月7日(日)
参加費: 300円

木のシートを使った工作。木のうちわに絵付けしたり、木の暑中見舞いを送ろう!



お鷹ぽっぽの絵付け

8月8日(月)～8月14日(日)
参加費: 500円

伝統工芸品に絵付することでワシ・タカ、フクロウたちの体の特徴を知ろう!



蜜ろうそくをつくろう!

8月15日(月)～8月21日(日)
参加費: 400円

ねんどのように好きな形のろうそくを作ります。



ワッシーくんのぬりえコーナーも用意していますので、小さいお子様も一緒にご来場ください!

イベント情報コーナー①

夏休み特別企画展示 第36回全国豊かな海づくり大会開催記念 「豊かな海のふるさと 潤う水の郷」

期日 平成28年8月20日(土)～10月10日(月)
時間 9:00～16:30
場所 鳥海イヌワシみらい館展示室
入館料 無料
協力 斎藤政広写真事務所 鳥海やわたインタープリター協会
鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会
庄内海岸いきもの調査グループ
特定非営利活動法人 庄内海岸のクロマツ林をたたえる会

お問合せ TEL 0234-64-4681 (鳥海イヌワシみらい館)
E-mail: moukin@raptor-c.com



イベント情報コーナー②

○秋田市大森山動物園と鳥海山で見る「2日間のイヌワシ観察会」

普段観察することが難しいイヌワシを、飼育下と野生下の両面から知ることができる2日間の特別な観察会です。日本一の繁殖技術を誇る秋田市大森山動物園では、イヌワシを飼育員の腕にのせた状態で間近に観察することができます。2日目の鳥海山では、野生下のイヌワシが暮らす厳しい環境と、鳥海山でのイヌワシ保護の歩みを探ります。

期 日 平成28年8月27日(土)・28日(日)

時 間 27日(土) 7:30~17:00

28日(日) 8:30~15:00

観察場所 27日(土) 秋田市大森山動物園(バスにて移動します。)

28日(日) 酒田市鳥海山南麓(バスにて移動します。)

集合場所 27日(土) 酒田市八幡タウンセンター(山形県酒田市観音寺字寺下41)

28日(日) 鳥海イヌワシみらい館(猛禽類保護センター)

定 員 先着20名(両日参加できる方を優先します。)

参加費 27日(土) 一人1,000円(入園料別途必要)

28日(日) 一人500円

講 師 28日(日) 佐藤淳志氏(鳥海山ワシタカ研究会)

持ち物 双眼鏡(貸出可)、昼食、マイカップ、筆記用具

募集期間 8月1日(月)~8月24日(水)午後5時まで

お申込み・お問合せ TEL 0234-64-4681(鳥海イヌワシみらい館)

E-mail: moukin@raptor-c.com



○猛禽類観察会「秋の渡りを見よう！」

繁殖を終え冬を前に日本から遠く離れた越冬地へ渡っていく猛禽類がいます。みんなでハチクマやサシバを観察しながら渡りのメカニズムを学んでみませんか？

期 日 平成28年9月25日(日)

時 間 9:00~15:00

場 所 秋田県にかほ市

定 員 先着15名

参加費 一人300円(保険代・資料代)

講 師 伊藤智樹氏(猛禽類保護ネットワーク)

持ち物 双眼鏡(貸出可)、昼食、マイカップ、筆記用具

募集期間 9月1日(日)~9月22日(木)午後5時まで

お申込み・お問合せ TEL 0234-64-4681(鳥海イヌワシみらい館)

E-mail: moukin@raptor-c.com



○猛禽類観察会「森の王者クマタカ」

期 日 平成28年10月16日(日)

時 間 8:30~12:00

場 所 酒田市

定 員 先着15名

参加費 一人300円(保険代・資料代)

持ち物 双眼鏡(貸出可)、マイカップ、筆記用具

募集期間 10月1日(土)~10月13日(木)午後5時まで

お申込み・お問合せ TEL 0234-64-4681(鳥海イヌワシみらい館)

E-mail: moukin@raptor-c.com



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

普及啓発担当

先日、意図しないダイエットによって栄養失調という診断を受けました。水栽培で頑張ります！次号！無事に発行できるのか？(本)

事務局

暑中お見舞い申し上げます。みなさん今年は熱中症+クマに気を付けましょう！(村)

自然保護専門員

今シーズンのイヌワシ繁殖はどうでしたか？観察者の笑顔を待ち望んでいます。(長)

鳥海南麓自然保護官

大量の荷物を持って下校する小学生・・・もうそんな時期なんですね。(鎌)

編集後記&施設情報

鳥海イヌワシみらい館 7月~9月の開館情報

開館時間・・・9:00~16:30

入館料・・・無料

休館日・・・メンテナンスのための臨時休館日

臨時休館日はホームページにてお知らせします。
ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

猛禽類保護センター

〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: moukin@raptor-c.com

鳥海イヌワシみらい館



鳥海イヌワシみらい館通信

Vol.19 夏号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)